

# 戦後の立て直し

とにかく戦争が終わった。戦地からもどってきた兵士や引きあげ者で都市はあふれかえったが、仕事を失い、家もなく、着るものも食べるものも大変不足していた。それでも人々は少しずつ社会をつくり直そうとした。

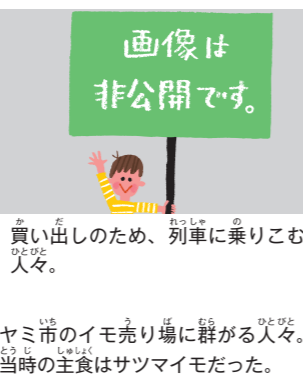
終戦直後の日本橋川。両岸はがれきの山。



焼け野原の銀座に生きる人々 報知新聞社のまんが記者だった麻生豊が、焼け野原になった銀座の復興のようすをえがいた。1946（昭和21）年から11年かけてえがかれ、巻き物になっている。《銀座復興絵巻》

## 戦後の暮らし

戦争が終わっても食糧事情は厳しい状況だった。配給制度は行われていたが、とてもたりる量ではなかった。地方の農家に買い出しに行ったり、禁じられているヤミ市で買ったりすることで、人々はなんとか生きのびた。



焼け野原にほうり出された人々は、そまつな小屋を建ててなんとか生活をした。

またゼロからの出発ね。



住むところもないなんて。

## おなかがペコペコ、米をよこせ!

終戦1年後の1946（昭和21）年5月1日に、「食糧メーデー」といわれる抗議集会が開かれた。この食糧難に苦しむ人々は、皇居前広場に集まって、直接天皇にこの状況をうたえようとしたのだ。集会はなん日も続き、子どももプラカードを持って参加した。



## <復興に向けて>

まずしなければならなかったのが、がれきの処理だった。関東大震災後（→p.106）にやっと復興した町が、再びがれきの山になってしまった。水運に利用されなくなった三十間堀川、東堀留川、龍閑川、新川、浜町川・外濠川（半分）を埋め立てることにし、がれきを使った。川を埋め立てることに反対意見も出たが、とにかくがれきの処理が最優先とされた。

### ●川の埋め立て

①三十間堀川（現・銀座一〜八丁目）



埋め立て前のようす。



埋め立て後、商業用地にするための工事がされている。



④東堀留川（現・堀留町一丁目～人形町一丁目）



埋め立てる前のようす。

③浜町川（現・日本橋富沢町16番～久松町7番の辺り）



埋め立てのようすがよくわかる。右の建物は久松小学校。小学校の前は川だった!



親父橋、万橋（→p.43）がかかっていた辺り。

こんなに川があったんだね。



### ●子どもも大変だった

戦争で親を失った子どもも多くいた。帰る場所もなく、駅や盛り場にあふれていた。くつみがきをしたり、おとなが吸ったタバコの吸殻を集めて売ったりする子どももいたほどだ。



栄養もいさかかず、体も小さかった。10歳で現代の子どもとこんなに差が出る。

※「学校保健統計調査」(文部科学省)より。

	昭和23年	平成24年
体重	25.6kg	34.0kg
身長	125.7cm	140.1cm
	26.0kg	34.0kg
	126.1cm	138.9cm

## 朝鮮戦争が日本を救った!?



二度と戦争を起こさないために国際連合(国連)ができた。しかし資本主義(→p.89)をおし進めるアメリカと社会主義のソ連が対立し、両国はたがいに争って、アジアで影響力を強めようとした。ソ連は朝鮮半島の北部に近づき、アメリカは南部を支援し、朝鮮を南北に分けて対立した。1950(昭和25)年、北朝鮮軍が南側にせめこみ、朝鮮戦争がはじまった。この戦争で日本は、アメリカに協力するためにたくさんの軍事物資をつくり、輸出したことで経済が回復した。

戦争のために船がたたくられようす。